

## 名古屋大学文学部・人文学研究科・文学研究科・国際言語文化研究科 2022年度 授業評価アンケートに基づく授業改善事例

- ・授業アンケートに基づき、オンライン授業において画面共有により提示する図表を追加した。
- ・紙のレジメを授業ごとに配布しているが、タブレットやパソコンを所持して講義を受講している学生から、データでも配布して欲しいとの要望が出たため、NUCT に授業前にレジメデータをアップロードした。
- ・Zoom の録画と録音は続けてほしいとの要望があったため、対面授業ではあったが、適宜録音と録画を使用するようにした。
- ・NUCT のフォーラムを使って授業の振り返りを書かせ、それに返信するという取り組みが好評だったので、引き続き続けている。
- ・TAの補助があって助かったという感想が複数あったので、必ずTAをつけるようにした。
- ・講義で使用するオンデマンド資料を、講義前日までに NUCT「リソース」にアップロードし、受講生からの質問、詳しく説明して欲しい箇所などを NUCT「課題」機能を用いて提出させ、学生の理解度を把握した上で講義を行った。結果として、受講生からは講義内容が十分理解できたとの反応があった。同時に、期末レポートにおいても、講義の内容を十分に理解した上で発展的な内容のレポートを全員が提出した。講義科目ではあるが、十分に双方向性の授業が展開できたと思われる。
- ・毎回担当者を 1 人決めてレジメを準備し発表したのち、参加者全員からコメントおよび質疑応答を行った。教員はできるだけ発言を控え、学生たちが自発的に考察を発展させ、担当者の発表時には思いつかなかった解釈などを提示しあうことで、参加者全員が大きな満足感と達成感を得られた。教員は議論を見守りつつ必要に応じて多少関与するにとどめたが、肯定的なコメントを心がけ、学生たちは萎縮することなく自由闊達な議論を行った。演習として成功した事例だと考える。
- ・授業アンケートで「フィールドワークのやり方を知りたい」という要望が出たため、授業にフィールドワークの実践に関する内容を 1 回追加した。
- ・授業アンケートに、もっとディスカッションを行った方がいいという意見があったため、毎回の授業では、講義内容に関するディスカッションを行い、受講者へ積極的にディスカッションへの参加を促した。
- ・授業アンケートで、学期の最初に解読する資料の解釈を深めた方がいいと分かったため、毎回新しい資料を使用して、受講者の全員がディスカッションに参加するようにし、資料を解釈する時間を増やした。
- ・オンラインの講義においても、学生からの反応を引き出すために、これまでの講義に導入して好評であった「CommentScreen」の機能を引き続き使用した。
- ・教員の一方的な講義ではなく、学生からの発表の機会として、希望者に本の紹介をしても

らっているが、今期においても引き続き行い、受講者からの感想（匿名）を感想集としてまとめて配布した。

- ・文献調査の方法を、多言語用いて行う場合の説明がほしいとの要望があったので、今回は授業内容に翻訳引用の方法などを盛り込んだ。
- ・事前準備の指示が煩雑になっていたのを、簡略化した。研究調査やキャリアについてのワークショップがあれば良いとの声に答えて、授業一回分をあててワークショップを実施した。
- ・ディスカッション進行役を履修生の間で持ち回りにしていたのが負担になるとの声があったため、今回は実験的に進行役のない偶発的な会話を試みた。履修生が多い学期には、また進行役をつける方法も考えたい。

以上